

No.427

小さな花が集まって

秋になると、川原や土手、道ばたなどに、背たけが60 cmほどで薄紫色の花をたくさんつけるノコンギク（野紺菊）が咲き始めます。富山市内でも割とかんたんに見つけることができ、花数も多いので、キクの花の特徴を観察するにはよい材料です。



一つ採って分解してみると、中から全部で39個の花が出てきました（下の図）。まるい一つの花のように見えていたものは、小さな花が集まってできていたのです。このつくりの花を頭状花と呼びます。頭状花の外周につく細長い花びらをもつ花を舌状花と呼び、内側にあつて小さなラップ型の花を管状花と呼びます。それぞれの花の先をルーペで観察すると、ちゃんとめしべとおしべがあります。一花ごとに、咲いている状態が異なるので、比べてみるとおもしろいですよ。

■ノコンギクの特徴

葉を触るとざらざらしています。舌状花、頭状花ともに、白い毛で囲まれています。舌状花の色は濃い青紫色から白色までさまざまな変化があります。（太田道人）

